



幼生(アンモシーテス)の眼は、皮膚下にあり外からは見えない。

県域 絶滅危惧Ⅱ類



環境省レッドリスト(2018) 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

河川の中流～下流域の泥底の中に生息する。成魚には眼が現れる。全長:約18cm

ヤツメウナギ科 カワヤツメ属 【標準全長】20cm

## スナヤツメ (北方種 南方種)

学名: *Lethenteron sp.1/sp.2*

### 分布域

北方種は中部地方以北。南方種は青森県と岩手県以南に分布する。

### 生息域

河川中流～下流域の水の澄んだ泥底～砂底部に生息する。



口は吸盤状で顎が無い。成魚。

一生を淡水域に生息する。他の生物に寄生(吸血)しない。体色は明茶褐色～暗緑褐色で個体差が視られる。アンモシーテス(幼生)期には眼が皮膚の下に隠れる。河川の中流～下流域の泥の中に生息する。泥中の有機物(デトリタス)や藻類を食べる。3～4年で18cm前後に成長し、秋頃に成体に変態する。変態後に眼が現れる。食道は糸状に退化し、約半年間餌を摂らずに成熟するのを待つ。翌年の5～6月に成熟し集団で砂礫底に産卵する。産卵後にその一生を終える。

水槽での飼育は可能だが、砂に潜ってほとんど出てこない。  
※遺伝的に北方種・南方種の2種に分かれたが、外観的には区別出来ない。

在来種

純淡水魚

※ 一生のほとんどを泥の中で生活し、めったにお目にかかれない。生息場所や採取方法がわからないと見つからない。遺伝子的に北方種・南方種に分けられ、福井県には両種が生息する(未確認)。